

# 会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
会議名 (審議会等名)	平成 30 度 嬉野市行財政調査委員会		
開催日時	平成 31 年 3 月 28 日 (木) 13 : 30~14 : 40		
開催場所	嬉野市役所塩田庁舎 3 階 3-2 会議室		
会議の公開の可否	Ⓞ ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委 員	江口委員、中野委員、田中宏委員、飯田委員、 森委員、谷山委員、小森委員	
	事務局	企画政策課長 (池田)、企画政策課副課長 (小野原、松本)	
	その他	なし	
会議の議題	別紙のとおり		
配布資料	嬉野市総合計画 嬉野市行財政改革指針		
審議等の内容	別紙のとおり		

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	企画政策課
議 題	1 嬉野市行財政改革指針について		
内 容	本市行財政改革推進について、今回、事務局より「嬉野市行財政改革指針」を提案。これまでの経緯及び指針の位置づけ・内容について資料をもとに説明し、各委員より意見聴取を行った後、「嬉野市行財政改革指針」が承認された。		
審議経過		<p><b>委員からの質疑、事務局の応答</b></p> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさと納税の寄附額が減る方向にあると伺いましたが、嬉野市の状況はどうですか？</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年度の寄附額は26億7千万円程で、全国から多くの寄附をいただきましたが、昨年11月に国の方針に従い返礼品の率の見直しをした結果、H30年度は18億円ぐらいと減少しているのが現状です。昨年11月以降の寄附額は、前年度比で8割程減っています。</li> </ul> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の予算編成にも相当影響を及ぼしそうですか？</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市としては、ふるさと納税を当てにして各事業を組み立たないようにと考えています。ふるさと納税が恒久的なものではないとの認識からです。しかし、市の貴重な財源で様々な事業にふるさと納税を充当しているのも現状で、全く影響はないとは言えません。</li> </ul> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画の要約版がこの行財政改革指針ということですか？</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・違います。総合計画に掲げる市の基本構想から基本計画、また実施計画を推進していく上で、行財政改革の考え方を持ちながら運営をしていくということで、今回この指針を定めています。</li> </ul> <p>委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この総合計画の全部の内容を配布したり市報等に掲載することは難しいと思いますが、市民へはどのようにして伝えられますか？</li> </ul> <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画については、昨年の市報で簡易な概要版を折込みの形で入れました。また、行政区ごとの市長ふれあい対話集会の際にも、概要版を活用し周知を図りました。しかし、まだ市民に知られてい</li> </ul>	

		<p>ないというのも現実としてありますので、さらなる周知を図っていききたいと思います。</p>
	委員	<p>・市報等に市の財政収支などが掲載されていますが、市の財政状況がよいのか、いくら歳入があつていくら歳出があるのか、分かりにくいと感じます。</p>
	事務局	<p>・嬉野市の財政は大丈夫なのか、健全財政なのか、疑問をもたれると思います。この辺りを市民に分かりやすく説明をすることが今後の課題です。</p>
	委員	<p>・各地域コミュニティには総合計画を置いていますが、あまり手にとってもらえていません。言葉で伝えれば、少しは興味を持ってもらえるかもしれません。良いものを作っているのので、私達も説明できるよう知識をつけたいと思います。</p>
	委員	<p>・民間委託や指定管理者制度、広域的な連携を掲げておられますが、何か新しいものや進めているものはありますか？</p>
	事務局	<p>・今回、企業誘致関連でビル建設を計画していますが、これは建設から運営まで民間に委託する形で進めています。また、公園や施設管理については、これまでもできるだけ指定管理者制度を活用した運営を行ってきております。広域連携では、水道事業が今後広域で運営することが決まっており、また、産業面等でも近隣の市町との連携で様々な取組みを実施する協議をしているところです。</p>
	委員	<p>・定住促進事業で何かやられていることはありますか？</p>
	事務局	<p>・定住奨励金という形で、移住される世帯等に持家取得に対する補助金の交付制度があります。</p>
	委員	<p>・人口減少の時代なので、嬉野市だけ人口を増やすということは厳しいと思いますが、地道に続けて定住者を増やしていただきたい。</p>
	事務局	<p>・市としては、市の良さをプロモーションして、企業誘致も含めて町を好きになり町に来てもらえるように努めて行かなければと考えています。新幹線開業が2022年に迫っている中で、定住人口も大事ですが、嬉野市は観光の町なので交流人口をいかに増やしていくのかという視点も重要と考えています。</p>

委員	・アパートや家は少しずつ建っているようですが、市での集合団地等、何か計画はありますか？
事務局	・嬉野市内では、現時点で市営住宅等の計画はありません。住宅地としては区画整理事業等があります。
委員	・定住奨励金の該当は、若い世代の方も多いですか？
事務局	・定住促進奨励金には新婚加算等を設け、若い世代の定住促進と図りたいと考えています。若い世代の申請は、嬉野地区より塩田地区が多く、理由として地価の価格差が影響していると思います。
委員	・民間委託が広がる中で、市としての管理・指導面をどのようにお考えですか？
事務局	・市職員の数が減っている中で、アウトソーシングできるものは推進すべきと考えますが、何でも民間任せにすると、先ほど指摘された問題が出てきます。その一方で市職員のレベルを上げていきたいと考えています。昨今はA Iなどが行政の中にも入ってきており、これにより市業務の効率化を図っていくことも全国的には始まっており、近い将来、嬉野市もこれらを活用していく必要があります、行政サービスの低下を防いでいきたいと考えています。
委員	・行政の運営において、民間委託等の事業効率化は重要なことですが、交流人口の増加や市内産業の拡大など地域活性化の施策こそ最も重要だと思います。新幹線開業も迫っていますが、市内にもすばらしい資源があるので、市役所だけでなく各関係団体や市民も一体となってPRし、もっと人が訪れる町になってくれたらと思います。
委員	・今回の市役所機構改革で情報発信を担う課は何課ですか？
事務局	・これまでは、企画政策課や観光面ではうれしの温泉観光課が担っていましたが、4月からは広報・広聴課が新設され、シティプロモーションなども含め情報発信全般を担当します。総合計画には分野別に政策を立て、それごとに「市民一人ひとりの役割」「地域・団体・企業の役割」「行政の役割」を掲げていて、市民も一体となった市全体での行政を構築・運営を目指しているところです。
委員	・自分たちの業界でも様々な取組みを行う際、SNS等で情報発信をすることでいろんな反応・意見を聞けて、またさらに発信すると

		<p>いうことを繰り返していかなければいけないと感じている。</p>
事務局		<p>・近年、情報発信の方法も変わり SNS 等は有効なツールとなっている。市の情報発信においても、どのような情報発信ツールを活用するかも重要な要素になっている。</p>
委員		<p>・最近、嬉野でもアニメ関連で SNS 発信により行列ができています。嬉野市である程度の人口減少は避けられないが、町が活性化するためには、交流人口を増やすことが大事だと思う。近年、韓国・台湾・中国等を中心に外国の来訪客が増えている。今後もインバウンドには力を入れていくべきだと考えています。</p>
委員		<p>・その他にも嬉野で SNS を有効に使い、お客さんが増えているところがある。またそのお客さんの拡散でさらにお客さんが増えるという良い循環も生まれているようだ。</p>
委員		<p>しかし気になるのは、SNS 等を活用しない（できない）人との情報格差が生まれることです。そういった意味では、誰もが情報に接することのできる提供の仕方も重要と考えます。</p>
委員		<p>・地域コミュニティには、情報発信一つをとってみても、SNS が活用しない（できない）高齢者等が不便を感じているなど、お年寄り等スローペースな方の意見が多く寄せられます。今困っていることにどう対応すればよいか、どうしたら皆が住みやすくなるのかを考えています。行政は先端技術やスピード社会に対応できていない高齢者等へも配慮していただきたいと思います。</p>
事務局		<p>・よく言われるのは、そのこの住民が幸せでないと、人はその町に来てくれないということです。災害等が起きたときなどに一番大切なのは隣近所による助け合いです。情報発信のやり方や有効性の話でとなっていました。市民生活の基盤となってくるのは、地域のコミュニティと考えています。</p>
委員		<p>・若者をたくさん増やすために大学や専門学校を建てて欲しいという意見がありますがどうですか？</p>
事務局		<p>・そのようなご意見も頂きます。企業等を誘致するにも行政だけでは動くものではなく、官民の理念・構想と運営体制が重要でそこが課題になってきます。運営側としては、学生等が集まってくれる環境がないと難しいとのことで、今後、様々な検討が必要となります。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線が開業しますが、それに向けて周辺の賑わいなど考えられていますか？</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線開業はあらゆる面で嬉野市にとって大きな転機になると考えられます。新幹線開業に向けては、新幹線駅周辺を区画整理事業により開発し、新幹線開通時の賑わい創出に向け、様々な事業を実施していく予定です。</li> </ul>
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新幹線開業と同時に、市の関連で嬉野医療センター以外に稼働するものはありますか？</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嬉野医療センター移転とその関連施設の整備が進んでいますが、市が直接関わるものとしては、来年度に企業誘致用のビルが建設される予定です。また、新幹線まちづくりの提言に基づき、駅周辺の各施設等の開発を進めているところです。構想の中には、賑わい広場や民間が参入できる商業施設等があります。今後、それを誰がどうやっていくかを検討しているところです。駅前に人が集めるのも大事ですが、駅前から温泉街や塩田町などへの結びつきも大事だと思っています。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの嬉野市の行財政改革は、第一次、第二次改革の中に大綱・実施計画があり、その中の項目を一つ一つチェックしていく作り方をしてきました。今回はこれまでの経緯を踏まえ、嬉野市行財政改革の方向性を定めた指針を作成し、それを基に行財政改革に取り組んでいくこととしておりますが、こういうことで委員の皆さまにはご理解していただけますでしょうか？</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・はい。（異議なし）</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もうひとつですが、委員任期が平成31年3月31日までで、一応今回の委員会までとなります。これまで貴重なご意見や慎重なご審議会、本当にありがとうございました。今後は、国からの行財政調査に市としての取組み状況を報告して、その報告に対して本委員会からご意見を頂くという形にしていきたいと考えています。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりました。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>ありがとうございます。他にご質問がなければ、これをもちまして今回の会議を終わらせていただきます。</li> </ul>